

避難確保計画

対象災害：水害（洪水 雨水出水 高潮 津波）

【施設名： みなみ保育園】

2026 年 7 月 作成

基本情報

基本情報

計画の名称 避難確保計画

対象災害 ☒ 洪水 ☒ 雨水出水 ☒ 高潮 ☒ 津波

作成年月 2026 年 7 月

自衛水防組織設置の有無 ☐ 有 ☒ 無

添付ファイル

登録されているファイルはありません

施設情報 (駅 駅高 水出水雨 水共) 害水：害災発校



※本地図の災害情報は、最新の情報を表示しています。計画作成時の情報と異なる場合がございます。

施設名称 みなみ保育園

事業所番号 1

事業所番号 2

事業所番号 3

事業所番号 4

事業所番号 5

事業所番号 6

事業所番号 7

事業所番号 8

運営主体 民間施設

所在地  南区氷室町2番6号

行政区 南区

学区 明治

担当者 水野 香子

電話番号 052-691-0373

主メール

kanri@minamihoiku.jp

補助メール

施設特性 1 **社会福祉施設** 保育所（民間）

施設特性 2

施設特性 3

施設特性 4

施設特性 5

施設特性 6

施設特性 7

施設特性 8

洪水 0.5～3.0m未満

雨水出水 0.5～3.0m未満

高潮 3.0～5.0m未満

津波 0.5～3.0m未満

土砂災害 対象外

家屋倒壊等氾濫想定区域内の有無 ☐ 有 ☒ 無

土砂災害（特別）警戒区域における種別 ☐ 土石流 ☐ 急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）

地域防災計画

記載年月 R2.6

削除年月

計画概要

計画の目的

記入例

この計画は、水防法第15条の3第1項および津波防災地域づくりに関する法律第71条の第1項に基づくものであり、本施設の利用者の洪水時および津波の発生時の円滑かつ迅速な避難の確保を図ることを目的とする。

関連法

水防法、津波防災地域づくりに関する法律

施設の概要

利用形態 ☒ 通所 ☐ 入所（長期） ☐ 入所（短期） 建物の階数

3 階

施設の人数

平日				休日			
利用者		職員		利用者		職員	
昼間	約 120人	約 36人		約 15人	約 4人		
夜間	約 0人	約 0人		約 0人	約 0人		

施設が有する災害リスク

施設において想定されている災害の種別や災害の大きさ等を記載しましょう。

水害（洪水、雨水出水、高潮、津波）

洪水浸水想定区域 （洪水）	☐ 該当なし ☒ 該当	最大浸水深	0.5～3.0m未満
		浸水継続時間	対象外
		家屋倒壊等氾濫想定区域の該当の有無 ☒ 該当なし ☐ 該当	
雨水出水浸水想定 区域（雨水出水）	☐ 該当なし ☒ 該当	最大浸水深	0.5～3.0m未満
		浸水継続時間	対象外

高潮浸水想定区域 (高潮)	☐ 該当なし	最大浸水深	3.0～5.0m未満
	☒ 該当	浸水継続時間	対象外
津波災害警戒区域 (津波)	☐ 該当なし	基準水位	0.5～3.0m未満
	☒ 該当	津波到達時間	対象外

土砂災害

土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域	☒ 該当なし	☐ 急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）
	☐ 該当	☐ 土石流

河川詳細

対象河川	該当有無	最大浸水深	家屋倒壊等氾濫想定区域の該当の有無
庄内川	☒ 該当なし ☐ 該当	対象外	☒ 該当なし ☐ 該当
矢田川（国管理）	☒ 該当なし ☐ 該当	対象外	☒ 該当なし ☐ 該当
木曽川	☒ 該当なし ☐ 該当	対象外	☒ 該当なし ☐ 該当
一級河川木曽川水系郷瀬川流域	☒ 該当なし ☐ 該当	対象外	☒ 該当なし ☐ 該当
一級河川庄内川水系矢田川・香流川流域	☒ 該当なし ☐ 該当	対象外	☒ 該当なし ☐ 該当
一級河川庄内川水系新川流域	☒ 該当なし ☐ 該当	対象外	☒ 該当なし ☐ 該当
一級河川庄内川水系堀川流域	☐ 該当なし ☒ 該当	0.5～3.0m未満	☒ 該当なし ☐ 該当
一級河川庄内川水系八田川流域	☒ 該当なし ☐ 該当	対象外	☒ 該当なし ☐ 該当
一級河川庄内川水系長戸川・野添川流域	☒ 該当なし ☐ 該当	対象外	☒ 該当なし ☐ 該当
一級河川庄内川水系内津川流域	☒ 該当なし ☐ 該当	対象外	☒ 該当なし ☐ 該当
二級河川境川水系境川・逢妻川流域	☒ 該当なし ☐ 該当	対象外	☒ 該当なし ☐ 該当
二級河川天白川水系天白川流域	☐ 該当なし ☒ 該当	0.5～3.0m未満	☒ 該当なし ☐ 該当

対象河川	該当有無	最大浸水深	家屋倒壊等氾濫想定区域の該当の有無
二級河川山崎川水系山崎川流域	☐ 該当なし ☒ 該当	0.5～3.0m未満	☒ 該当なし ☐ 該当
二級河川日光川水系日光川流域	☒ 該当なし ☐ 該当	対象外	☒ 該当なし ☐ 該当

計画の報告

計画を作成又は必要に応じて見直し・修正をしたときは、遅滞なく、当該計画を市町村長へ報告する。

計画の見直し

避難訓練の結果や社会情勢の変化に伴い、定期的に見直すものとする。

防災体制

防災体制【洪水】

記入例

防災体制確立時の組織構成と役割分担

レベル	総括指揮者 全体を指揮 責任者 水野香子	情報連絡班 情報収集や伝達 責任者 面高幸恵	避難誘導班 利用者の避難支援 責任者 子安雄大	装備品等準備班 設備や装備品等の点検・準備 責任者 白濱茜
警戒レベル 1 ↓ 災害への心構えを高める段階	人数 1 名 - 状況把握、指揮 - 体制確立の判断 - 事前休業の判断	人数 1 名 - 気象情報等収集 - 施設職員への情報伝達	人数 1 名 (避難誘導体制の確認) (避難ルートの確認)	人数 1 名 (避難に必要な設備や装備品、備蓄品、避難先への持ち出し品等を点検し準備)
警戒レベル 2 ↓ 注意体制	人数 1 名 - 状況把握、指揮 - 施設職員等招集 (避難開始判断)	人数 1 名 - 洪水予報等の情報収集 - 気象情報、水位情報、避難情報、避難先情報等の収集 - 施設職員や避難支援協力者へ連絡	人数 25 名 - 避難誘導体制の確認 - 避難ルートの確認 (避難誘導開始)	人数 3 名 - 避難に必要な設備や装備品、備蓄品、避難先への持ち出し品等を点検し準備 - 移動用車両の手配
警戒レベル 3 ↓ 警戒体制	人数 1 名 - 状況把握、指揮 - 避難開始判断	人数 1 名 - 避難情報等の情報収集 - 保護者への事前連絡 - 周辺住民への事前協力依頼	人数 25 名 - 使用する資器材の準備 - 要配慮者の避難誘導	人数 3 名 - 要配慮者等の装備品の装着 - 移動用車両の確保 - 避難先への持ち出し品等を運搬
警戒レベル 4 ↓ 非常体制	人数 1 名 - 状況把握、指揮 - 避難先での利用者支援の監督	人数 1 名 市町村等への連絡	人数 25 名 - 施設内全体の避難誘導 - 避難完了の確認	人数 3 名 避難先での持ち出し品等の管理

レベル	総括指揮者 全体を指揮 責任者 水野香子	情報連絡班 情報収集や伝達 責任者 面高幸恵	避難誘導班 利用者の避難支援 責任者 子安雄大	装備品等準備班 設備や装備品等の点検・準備 責任者 白濱茜
	（緊急安全確保の判断）	施設職員への情報伝達	- 避難先での利用者支援 （緊急安全確保の誘導）	【本邦】 熊本県

警戒レベル1 ↓ 災害への心構えを高める段階	- 警報級の可能性（大雨警報または暴風警報）「中」または「高」が発表された場合 - 台風の接近が予想されている場合
警戒レベル2 ↓ 注意体制	名古屋市に大雨・洪水警報（レベル3相当）の発表
警戒レベル3 ↓ 警戒体制	- 明治学区に高齢者等避難（レベル3）の発令 - 山崎川避難判断水位到達情報（レベル3相当）
警戒レベル4 ↓ 非常体制	- 明治学区に避難指示（レベル4）、緊急安全確保（レベル5）の発令 - 名古屋市に大雨特別警報（レベル5相当）の発表 - 山崎川氾濫危険情報（レベル4相当）

事前休業の判断について

早期注意情報（警報級の可能性）の「中」または「高」が発表されている場合や大型台風の襲来が予想される場合、公共交通機関の計画的な運休が予定される場合、翌日の通所部門を臨時休業とする。

または午前6時の時点で、名古屋市に以下のいずれかが発令されている場合は、通所部門を臨時休業とする。

事前休業の判断基準となる防災気象情報等

高齢者等避難
暴風警報又は特別警報

開業時間と利用者の通所にかかる時間を考慮して、休業の判断をする。

防災体制確立時の組織構成と役割分担

レベル	総括指揮者 全体を指揮 責任者 水野香子	情報連絡班 情報収集や伝達 責任者 面高幸恵	避難誘導班 利用者の避難支援 責任者 子安雄大	装備品等準備班 設備や装備品等の点検・準備 責任者 白濱茜
警戒レベル 1 ↓ 災害への心構えを高める段階	人数 1 名 - 状況把握、指揮 - 体制確立の判断 - 事前休業の判断	人数 1 名 - 気象情報等収集 - 施設職員への情報伝達	人数 1 名 (避難誘導体制の確認) (避難ルートの確認)	人数 1 名 (避難に必要な設備や装備品、備蓄品、避難先への持ち出し品等を点検し準備)
警戒レベル 2 ↓ 注意体制	人数 1 名 - 状況把握、指揮 - 施設職員等招集 (避難開始判断)	人数 1 名 気象情報等の情報収集	人数 25 名 - 避難誘導体制の確認 - 避難ルートの確認 (避難誘導開始)	人数 3 名 - 避難に必要な設備や装備品、備蓄品、避難先への持ち出し品等を点検し準備 - 移動用車両の手配
警戒レベル 3 ↓ 警戒体制	人数 1 名 - 状況把握、指揮 - 避難開始判断	人数 1 名 - 避難情報等の情報収集 - 保護者への事前連絡 - 周辺住民への事前協力依頼	人数 25 名 - 使用する資器材の準備 - 要配慮者の避難誘導	人数 3 名 - 要配慮者等の装備品の装着 - 移動用車両の確保 - 避難先への持ち出し品等を運搬
警戒レベル 4 ↓ 非常体制	人数 1 名 - 状況把握、指揮 - 避難先での利用者支援の監督 (緊急安全確保の判断)	人数 1 名 - 市町村等への連絡 - 施設職員への情報伝達	人数 25 名 施設内全体の避難誘導	人数 3 名 避難先での持ち出し品等の管理

警戒レベル1
↓
災害への心構えを高める段階

- 警報級の可能性（大雨警報または暴風警報）「中」または「高」が発表された場合
- 台風の接近が予想されている場合

警戒レベル2 ↓ 注意体制	名古屋市に大雨警報（浸水害）（レベル3相当）の発表
警戒レベル3 ↓ 警戒体制	明治学区に高齢者等避難開始（レベル3）の発令
警戒レベル4 ↓ 非常体制	- 明治学区に避難指示（レベル4）、緊急安全確保（レベル5）の発令 - 名古屋市に大雨特別警報（レベル5相当）の発表 - 名古屋市に記録的短時間大雨情報の発表

事前休業の判断について

早期注意情報（警報級の可能性）の「中」または「高」が発表されている場合や大型台風の襲来が予想される場合、公共交通機関の計画的な運休が予定される場合、翌日の通所部門を臨時休業とする。

または午前6時の時点で、名古屋市に以下のいずれかが発令されている場合は、通所部門を臨時休業とする。

事前休業の判断基準となる防災気象情報等

高齢者等避難
暴風警報又は特別警報

開業時間と利用者の通所にかかる時間を考慮して、休業の判断をする。

防災体制【高潮】

記入例

防災体制確立時の組織構成と役割分担

レベル	総括指揮者 全体を指揮 責任者 水野香子	情報連絡班 情報収集や伝達 責任者 面高幸恵	避難誘導班 利用者の避難支援 責任者 子安雄大	装備品等準備班 設備や装備品等の点検・準備 責任者 白濱茜
警戒レベル1 ↓ 災害への心構えを高める段階	人数 1 名 - 状況把握、指揮 - 体制確立の判断 - 事前休業の判断	人数 1 名 - 気象情報等収集 - 施設職員への情報伝達	人数 1 名 （避難誘導体制の確認） （避難ルートの確認）	人数 1 名 （避難に必要な設備や装備品、備蓄品、避難先への持ち出し品等を点検し準備）

レベル	総括指揮者 全体を指揮	情報連絡班 情報収集や伝達	避難誘導班 利用者の避難支援	装備品等準備班 設備や装備品等の点検・準備
	責任者 水野香子	責任者 面高幸恵	責任者 子安雄大	責任者 白濱茜
警戒レベル 2 ↓ 注意体制	人数 1 名	人数 1 名	人数 25 名	人数 3 名
	- 状況把握、指揮 - 施設職員等招集 (避難開始判断)	気象情報等の情報収集	- 避難誘導体制の確認 - 避難ルートの確認 (避難誘導開始)	- 避難に必要な設備や装備品、備蓄品、避難先への持ち出し品等を点検し準備 - 移動用車両の手配
警戒レベル 3 ↓ 警戒体制	人数 1 名	人数 1 名	人数 25 名	人数 3 名
	- 状況把握、指揮 - 避難開始判断	- 避難情報等の情報収集 - 保護者への事前連絡 - 周辺住民への事前協力依頼	- 使用する資器材の準備 - 要配慮者の避難誘導	- 要配慮者等の装備品の装着 - 移動用車両の確保 - 避難先への持ち出し品等を運搬
警戒レベル 4 ↓ 非常体制	人数 1 名	人数 1 名	人数 25 名	人数 3 名
	- 状況把握、指揮 - 避難先での利用者支援の監督 (緊急安全確保の判断)	- 市町村等への連絡 - 施設職員への情報伝達	施設内全体の避難誘導	避難先での持ち出し品等の管理

警戒レベル1 ↓ 災害への心構えを高める段階	台風の接近が予想されている場合
警戒レベル2 ↓ 注意体制	名古屋市に高潮注意報（レベル3相当）の発表

警戒レベル3 ↓ 警戒体制	- 明治学区に高齢者等避難（レベル3）の発令 - 名古屋市に高潮・高潮特別警報（レベル4相当）の発表
警戒レベル4 ↓ 非常体制	- 明治学区に避難指示（レベル4）、緊急安全確保（レベル5）の発令 - 三河湾・伊勢湾沿岸に高潮氾濫発生情報の発表

事前休業の判断について

早期注意情報（警報級の可能性）の「中」または「高」が発表されている場合や大型台風の襲来が予想される場合、公共交通機関の計画的な運休が予定される場合、翌日の通所部門を臨時休業とする。
または午前6時の時点で、名古屋市に以下のいずれかが発令されている場合は、通所部門を臨時休業とする。

事前休業の判断基準となる防災気象情報等

高齢者等避難
暴風警報又は特別警報

開業時間と利用者の通所にかかる時間を考慮して、休業の判断をする。

防災体制【津波（到達時間が短い場合）】

記入例

防災体制確立時の組織構成と役割分担

レベル	総括指揮者 全体を指揮 責任者 水野香子	情報連絡班 情報収集や伝達 責任者 面高幸恵	避難誘導班 利用者の避難支援 責任者 子安雄大	装備品等準備班 設備や装備品等の点検・準備 責任者 白濱茜
警戒レベル3 ↓ 警戒体制	人数 1 名 - 状況把握、指揮 - 避難開始判断	人数 1 名 - 津波情報等の情報収集 - 保護者等家族への事前連絡 - 周辺住民への事前協力依頼	人数 25 名 使用する資器材の準備	人数 3 名 - 要配慮者等の装備品の装着 - 移動用車両の確保 - 避難先への持ち出し品等を運搬
警戒レベル4 ↓ 非常体制	人数 1 名 - 状況把握、指揮 - 避難先での利用者支援の監督	人数 1 名 市町村等への連絡	人数 25 名 避難誘導	人数 3 名 避難先での持ち出し品等の管理

レベル	総括指揮者 全体を指揮	情報連絡班 情報収集や伝達	避難誘導班 利用者の避難支援	装備品等準備班 設備や装備品等の点検・準備
	責任者 水野香子	責任者 面高幸恵	責任者 子安雄大	責任者 白濱茜
	（緊急安全確保の判断）	施設職員への情報伝達		

警戒レベル3 ↓ 警戒体制	- 緊急地震速報 - 伊勢・三河湾に津波注意報の発表 - 施設所在地に避難勧告、避難指示（緊急）の発令 - 伊勢・三河湾に津波警報、津波特別警報（大津波警報）の発表 - 危険の前兆を確認 等
---------------------	---

津波は 20cm から 30cm 程度の高さであっても、急で強い流れが生じるため、これに巻き込まれて流されれば、命を脅かされる可能性があることから、大津波警報・津波警報・津波注意報のいずれが発表された場合であっても、危険な地域からの一刻も早い避難行動をとる必要がある。また、震源が沿岸に近い場合は地震発生から津波来襲までの時間が短いことから、少しでも早く避難する必要があり、津波災害警戒区域等に居るときに強い揺れ（震度 4 程度以上）又は長時間ゆっくりとした揺れを感じた者は、気象庁の津波警報等の発表や市町村からの避難指示の発令を待たずに、自主的かつ速やかに避難行動をとることが必要である。

防災体制【津波（到達時間が長い場合）】

記入例

防災体制確立時の組織構成と役割分担

レベル	総括指揮者 全体を指揮	情報連絡班 情報収集や伝達	避難誘導班 利用者の避難支援	装備品等準備班 設備や装備品等の点検・準備
	責任者 水野香子	責任者 面高幸恵	責任者 子安雄大	責任者 白濱茜
警戒レベル 2 ↓ 注意体制	人数 1 名 - 状況把握、指揮 - 施設職員等招集 （避難開始判断）	人数 1 名 - 洪水予報等の情報収集 - 気象情報、水位情報、避難情報、避難先情報等の収集 - 施設職員や避難支援協力者へ連絡	人数 25 名 - 避難誘導体制の確認 - 避難ルートの確認 （避難誘導開始）	人数 3 名 - 避難に必要な設備や装備品、備蓄品、避難先への持ち出し品等を点検し準備 - 移動用車両の手配
警戒レベル 3 ↓ 警戒体制	人数 1 名 - 状況把握、指揮 - 避難開始判断	人数 1 名 避難情報等の情報収集	人数 25 名 使用する資器材の準備	人数 3 名 要配慮者等の装備品の装着

レベル	総括指揮者 全体を指揮 責任者 水野香子	情報連絡班 情報収集や伝達 責任者 面高幸恵	避難誘導班 利用者の避難支援 責任者 子安雄大	装備品等準備班 設備や装備品等の点検・準備 責任者 白濱茜
		- 保護者への事前連絡 - 周辺住民への事前協力依頼	要配慮者の避難誘導	- 移動用車両の確保 - 避難先への持ち出し品等を運搬
警戒レベル 4 ↓ 非常体制	人数 1 名 - 状況把握、指揮 - 避難先での利用者支援の監督 (緊急安全確保の判断)	人数 1 名 - 市町村等への連絡 - 施設職員への情報伝達	人数 25 名 - 施設内全体の避難誘導 - 避難完了の確認 - 避難先での利用者支援 (緊急安全確保の誘導)	人数 3 名 避難先での持ち出し品等の管理
警戒レベル2 ↓ 注意体制	「遠地地震に関する情報」の中で津波の到達予想時刻等の情報が発表された場合			
警戒レベル3 ↓ 警戒体制	- 高齢者等避難が発令された場合 - 津波注意報、津波警報、大津波警報が発表された場合 - 避難指示が発令された場合			

我が国から遠く離れた場所で発生した地震に伴う津波のように到達までに相当の時間があるものについては、気象庁が、津波警報等が発表される前から津波の到達予想時刻等の情報を「遠地地震に関する情報」の中で発表する場合がある。

市町村は、この「遠地地震に関する情報」の後に津波警報等が発表される可能性があることを認識し、津波警報等の発表前であっても、必要に応じて高齢者等避難の発令を検討するものとなっている。

施設利用者の人数や特性等から、施設利用者の避難完了に多くの時間を要する場合には、気象庁の津波警報等の発表や市町村からの避難指示の発令を待たずに、自主的かつ速やかに避難行動をとることが必要である。

情報収集・伝達

情報収集・伝達

記入例

情報収集

収集する主な情報及び収集方法は、以下のとおりとする。

	収集すべき情報	入手先
共通の情報	【防災気象情報（気象庁）】 早期注意情報（警報級の可能性）	- テレビ - ラジオ - インターネット
	【避難情報（市町村）】 - 警戒レベル3 高齢者等避難 - 警戒レベル4 避難指示 - 警戒レベル5 緊急安全確保	- 同報無線（防災スピーカー） - 広報車等の広報等 - テレビ・ラジオ - 電子メール（きずなネット防災情報） - SNS（フェイスブック、ツイッター） - 名古屋市の避難情報に係る緊急速報メール - インターネット
	【避難所の開設状況（市町村）】 指定緊急避難場所や福祉避難所の開設状況	- テレビ・ラジオ - 名古屋市HP （災害時！最寄りの避難所開設情報）等
	道路の通行止め情報	日本道路交通情報センターのHP 等
洪水	- 洪水注意報、洪水警報 - 大雨注意報、大雨警報、大雨特別警報 - キキクル（大雨・洪水警報の危険度分布） - 洪水予報 - 氾濫注意情報、氾濫警戒情報 - 氾濫危険情報、氾濫発生情報	- テレビ - ラジオ - インターネット
雨水出水	- 大雨注意報、大雨警報、大雨特別警報 - 雨水出水氾濫危険情報 （水位周知下水道において発表される情報）	- テレビ - ラジオ - インターネット
高潮	高潮注意報、高潮警報、高潮特別警報	- テレビ - ラジオ

	対象情報	主な入手先	伝達内容	情報伝達の流れ	
				発信者	情報伝達先
警戒レベル 1	早期注意情報	インターネット (気象庁HP)	大雨の警報級の可能性「高」が発表されました。 災害への心構えを高める段階です。	情報連絡班	施設職員
	事前休業のお知らせ	統括指揮者の判断を確認	〇〇日は、大雨が予想されていますので、施設を休業することになりました。	情報連絡班	乳幼児の家族
警戒レベル 2	職員への招集連絡	統括指揮者の判断を確認	大雨注意報が発表されましたので施設に参集してください。	情報連絡班	施設職員 避難支援協力者
	洪水注意報	インターネット (気象庁HP)	洪水注意報が発表されました。 注意体制をとる段階です。	情報連絡班	施設職員 避難支援協力者
	氾濫注意情報	インターネット (川の防災情報)	山崎川に氾濫注意情報が発表されました。 注意体制をとる段階です。	情報連絡班	施設職員 避難支援協力者
警戒レベル 3	大雨注意報	インターネット (気象庁HP)	大雨注意報が発表されました。 注意体制をとる段階です。	情報連絡班	施設職員 避難支援協力者
	高齢者等避難	インターネット等 (緊急速報メール)	高齢者等避難が発令されました。	情報連絡班	施設職員 避難支援協力者
	洪水警報	インターネット (気象庁HP)	洪水警報が発表されました。 警戒体制をとる段階です。	情報連絡班	施設職員 避難支援協力者
	氾濫警戒情報	インターネット (川の防災情報)	山崎川に氾濫警戒情報が発表されました。 警戒体制をとる段階です。	情報連絡班	施設職員 避難支援協力者
警戒レベル 4	大雨警報	インターネット (気象庁HP)	大雨警報が発表されました。 警戒体制をとる段階です。	情報連絡班	施設職員 避難支援協力者
	避難指示	インターネット等 (緊急速報メール)	避難指示が発令されました。	情報連絡班	施設職員 避難支援協力者
	氾濫危険情報	インターネット (川の防災情報)	山崎川に氾濫危険情報が発表されました。 非常体制をとる段階です。	情報連絡班	施設職員 避難支援協力者
	土砂災害警戒情報	インターネット (気象庁HP)	土砂災害警戒情報が発表されました。 非常体制をとる段階です。	情報連絡班	施設職員 避難支援協力者

避難誘導

避難誘導

記入例

避難先、移動距離及び避難方法

避難場所及び屋内安全確保を図る場所は下表のとおりとする。また、悪天候の中の避難や、夜間の避難は危険を伴うことから、建物が堅牢で家屋倒壊のおそれがなく、想定浸水深よりも高い避難場所がある場合には、屋内安全確保を図るものとする。また、津波の到達時間や利用者の健康状態等により避難場所への避難が困難な場合においても、建物が堅牢で家屋倒壊のおそれなく、想定浸水深（基準水位）よりも高い避難場所がある場合には、屋内安全確保を図るものとする。屋内安全確保を図る場合は、備蓄物資を用意する。

洪水	避難先	移動距離	避難方法			移動に要する時間	避難開始基準	避難階
			徒歩	車両	その他機材			
系列施設や他の同種類似施設			☐	☐	0 台			階
指定緊急避難場所	 みなみ保育園 (44 m) 洪水：山崎川 0.5～3.0m未満 津波：0.5～3.0m未満 高潮：3.0～5.0m未満 雨水出水：0.5～3.0m未満		☒	☐	0 台			2 階
近隣の安全な場所			☐	☐	0 台			階
屋内安全確保	施設の 2階／3 階建	0 m						2 階
該当する災害リスク：0.5～3.0m未満（2階以上への避難が必要）								

雨水出水	避難先	移動距離	避難方法			移動に要する時間	避難開始基準	避難階
			徒歩	車両	その他機材			
系列施設や他の同種類似施設			☐	☐	0 台			階
指定緊急避難場所	 みなみ保育園 (34 m) 洪水：山崎川 0.5～3.0m未満 津波：0.5～3.0m未満 高潮：3.0～5.0m未満 雨水出水：0.5～3.0m未満		☒	☐	0 台			2 階
近隣の安全な場所			☐	☐	0 台			階

雨水出水	避難先	移動距離	避難方法			移動に要する時間	避難開始基準	避難階
			徒歩	車両	その他機材			
屋内安全確保	施設の 2階／3 階建	0 m			0 台			2 階
該当する災害リスク：0.5～3.0m未満（2階以上への避難が必要）								

高潮	避難先	移動距離	避難方法			移動に要する時間	避難開始基準	避難階
			徒歩	車両	その他機材			
系列施設や他の同種類似施設			☐	☐	0 台			階
指定緊急避難場所	明治小学校 (377 m) 洪水：山崎川 0.5～3.0m未満 津波：0.5～3.0m未満 高潮：3.0～5.0m未満 雨水出水：0.5～3.0m未満		☒	☐	0 台			3 階
近隣の安全な場所			☐	☐	0 台			階
屋内安全確保	施設の 3階／3 階建	0 m						3 階
該当する災害リスク：3.0～5.0m未満（3階以上への避難が必要）								

津波	避難先	移動距離	避難方法			移動に要する時間	避難開始基準	避難階
			徒歩	車両	その他機材			
系列施設や他の同種類似施設			☐	☐	0 台			階
指定緊急避難場所	みなみ保育園 (34 m) 洪水：山崎川 0.5～3.0m未満 津波：0.5～3.0m未満 高潮：3.0～5.0m未満 雨水出水：0.5～3.0m未満		☒	☐	0 台			2 階
近隣の安全な場所			☐	☐	0 台			階

以下に該当するか検討の上、屋内安全確保を選択するかどうかを慎重に判断する

- 家屋倒壊等氾濫想定区域、土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域、津波による浸水のおそれがある区域に存していないこと
- 浸水しない居室があること
- 一定期間浸水することにより生じる可能性がある支障を許容できること

緊急安全確保

急激に災害が切迫することにより（警戒レベル5 緊急安全確保の発出などが目安）、避難確保計画に定めた場所への避難を安全にできないような、過酷な事象に遭遇した場合は以下の場所に緊急的に移動する

※本行動は、災害が発生・切迫した段階での対処であり、本来は立ち退き避難をすべきだったが、避難し遅れた際にとる次善の行動である点に留意する。

施設の2階／3階建

避難経路

避難先までの避難経路は、【施設周辺の避難地図】【施設建物内の避難経路図】のとおりとする。避難先は、避難訓練等により避難できることを確かめ、必要に応じ見直しするものとする。

【施設周辺の避難地図】



※本地図の災害情報は、最新の情報を表示しています。計画作成時の情報と異なる場合がございます。

【施設建物内の避難経路図】

画像ファイルが登録されていません

設備・備蓄

避難に必要な設備の整備

記入例

避難誘導の際に使用する設備等については、下表に示すとおりである。これらの設備等については、日頃からその維持管理に努めるものとする。

分類	設備等	数量	設置場所、保存場所
通常の設定	エレベーター	1	施設中央部（1～3階）
緊急時の設備	停電対策としての非常用電源の設置	1	

避難に必要な装備品や備蓄品の整備

避難に必要な装備品や備蓄品等の例については、下表に示すとおりである。これらの装備品や備蓄品等については、日頃からその維持管理に努めるものとする。

分類	装備品や備蓄品等	数量	設置場所、保存場所
情報収集・伝達	テレビ	1	せんせいの部屋
	インターネットに接続したパソコンやタブレット端末	24	せんせいの部屋
	ファックス	1	せんせいの部屋
	携帯電話やスマートフォン	1	せんせいの部屋
	乾電池	20	せんせいの部屋
	ラジオ	7	せんせいの部屋、各部屋
	携帯電話用バッテリー	1	せんせいの部屋
	発電機	1	3階倉庫
	ソーラー充電器	1	せんせいの部屋
避難誘導	名簿（従業員・利用者名簿）	1	せんせいの部屋
	ピブス	0	
	懐中電灯	4	せんせいの部屋
	ハンドマイク	1	せんせいの部屋
	雨具	1	せんせいの部屋
	ライフジャケットやヘルメット	25	せんせいの部屋、各保育室
	避難ルートを示したマップ	1	せんせいの部屋
	救急用品	8	せんせいの部屋、各保育室
	移動用の避難車	3	エントランス、外部倉庫
	拡声器	1	せんせいの部屋
	乾電池	20	せんせいの部屋
	携帯電話	1	せんせいの部屋
	携帯電話用バッテリー	1	せんせいの部屋
	水や食糧（単位：日分）	3	3階倉庫

避難先	おむつ	100	2階保育室、3階倉庫
	おやつ	30	給食室
	おんぶひも	8	0歳・1歳児保育室
	テント	2	3階倉庫
	毛布	10	3階倉庫
その他	ウェットティッシュ	5	せんせいの部屋
	ゴミ袋	30	1階倉庫
	タオル	50	1階倉庫
	カセットコンロ	1	1階倉庫
	カセットボンベ	7	1階倉庫

防災教育及び訓練

防災教育及び訓練の実施に関する事項

記入例

防災教育及び訓練の年間計画

避難確保計画の作成＝防災体制の確立

実施予定時期



避難確保計画の周知

- 施設職員、利用者や利用者の家族、避難支援協力者に電子データなどで避難確保計画を共有し、周知する

12 月頃

施設職員、避難支援協力者への防災教育

- 水害・土砂災害の危険性や避難場所の確認
- 過去の被災経験や災害に対する知恵の伝承 等

4 月頃

新規職員4月
全従業員5月

利用者、施設利用者の家族への防災教育

- 水害・土砂災害の危険性や避難場所の確認
- 緊急時の対応等に関する保護者・家族等への説明 等

9 月頃



情報収集、情報伝達訓練

- 施設職員の緊急連絡網の試行
- 保護者・家族等への情報伝達手段（メール・電話等）の確認、情報伝達の試行 等

9 月頃

10月も実施

立退き避難訓練

- 避難経路ごとに避難方法（車、徒歩など）を確認
- 施設から避難先までの避難に要する時間の計測 等

11 月頃

10月も実施

6 月頃

屋内安全確保訓練

- 避難方法の確認
- 避難に要する時間の計測 等

10月も実施



避難訓練結果の振り返り

- 訓練終了後に参加者全員で訓練を振り返る
- 訓練計画時に決めた訓練の目的・目標について達成度を確認し、その後、個別の反省点や行動等について意見交換する

6 月頃



市町村への避難訓練結果の報告

- システム内の訓練実施報告の様式に基づき名古屋市に訓練結果を報告する

11 月頃



避難確保計画の見直し

- 振り返りであげられた意見や問題点を踏まえて、避難確保計画を見直す

12 月頃

